（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	スターパレット（児童発達支援事業所）			
○保護者評価実施期間	令和7年4月21日		～	令和7年4月30日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	16名	（回答者数）	12名
○従業者評価実施期間	令和7年4月21日		～	令和7年4月30日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3名	（回答者数）	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの興味関心のあることから課題に沿って 活動に取り入れており、支援を楽しく行なっている	子どもたちの課題の見極めや現状の把握と共に、 今何に興味があるのか、好きなもの、こと、 得手不得手を把握し、共有する様にしている	職員間で実施時の様子やその後の支援の展開、 継続して取り組んでいけることの情報共有、 交換を行ない、個々でなくチームとして 取り組んでいけるようにする
2	併設保育園の園庭を使用できることや室内に 十分なスペースがあることで身体をしっかりと 動かすことができる	一日の活動の中で身体を動かす時間や子どもたちに とっても発散となる場面を設けるようにしている。 動の活動と静の活動（着席や集中力を要するもの）の バランスをとりながら活動を組んでいる。	日常動作向上や体力強化、身体の基盤作りを目指し、 集団活動の中でも個々の身体機能の向上に繋がる 運動遊びを取り入れていく
3	記録や送迎時のやりとり、面談や見学を通して お子様の様子を丁寧に伝えている	日頃の様子を細かに伝えたり、保護者からの相談事や 何か気になる様子があれば都度対応している	保護者対応の様子を職員間でも密に共有し、気になる ことや様子があれば迅速に対応するよう動いていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の質の向上	対応職員によって子どもたちも見せる姿を変えたり、 活動の内容や展開にも違いが生じている。 支援方法や内容、対応の仕方は共有しているが、 実践時には違いが生じることもある。 子どもの様子や課題の把握や視点もより高めていきたい。	会社独自のチェックシートの活用をすすめ、振り返りや 子どもの様子の共有、事例検討などの機会を多く 設けていく。
2	健常児や同年齢児の集団の中での子ども同士のかかわり	保育園が併設の為、健常児や同年齢児の集団の 中で過ごす機会や関りが持てないわけではないが、 環境を活かしきれていない。 利用児童の保護者の中には、より大きな集団で過ごす 機会や子ども同士の関りがもてる機会の求めもある。	イベントに限らず、日常の活動でも関りをもてる機会を 設けていけるよう、併設保育園の職員とも相談し、連携を とっていく。 一緒に実施できることを考えていき、実施後はその様子を 保護者にも丁寧に共有していく。
3	専門的な支援が難しい	お子様の特性や課題によって、保護者様から より専門的な支援を望まれることがあるが、そこへ 対応できる職員の配置が現状ではない。	同法人内の児童発達支援センターでは専門職も 配置している為、職員同士の連携や支援の相談を より活発に行なっていく。